

# 湯本幼児学園だより 11月

～箱根を愛し、かしこく、やさしく、たくましく～



令和3年11月30日(火)

湯本幼児学園

晴天続きのうれしい毎日。子どもたちは、冬のしたくが始まっている園庭で、元気いっぱいあそんでいます。冷たい風にほおを赤くしている子も見かけます。

友達を誘い、鬼ごっこや、リレー、円形ドッチボールなど楽しんでます。異年齢交流も自然に行われ、なかよし組の遊びに仲間に入るきりん組。ぺんぎん組のお世話をするきりん組。憧れのお兄さんの真似をするちゅうりっぷ組。等コロナ対策を取りながら、交流の機会を増やしています。

19日はなかよし組が考えたお化け屋敷とレストランに招待してくれました。つくし組から順番に遊びに行き、楽しませてもらいました。一つ一つの活動から、なかよし組の子ども達が、それぞれの思いを出し、試したり工夫したりしながら、同じ目的に向かって思いを共有し、考えをまとめ、形にしていくことの喜びと楽しみを感じています。

散歩に出かけ、ドングリや落ち葉、木の実など子ども達が拾ってきたもので製作も始まっています。五感を使い創造力、思考力を駆使して、箱根の秋の自然物を使って遊びが展開していくかと思うとワクワクします。

参観ウィークでは3日間の予定で子ども達の園での生活を参観して頂く予定です。

子ども達が、お家の人にこんなこと見せたい、あんなことしたいと色々と考えているようです。

参観ウィークの名前もなかよし組が考えてくれました。ご案内は1日、詳しい内容は各クラスのお便りでお知らせします。

幼児期はあそびの中で色々なことを学んでいます。興味関心を持ち、自分なりに探求していく力も付きます。試したり工夫したりしながら獲得していきます。また、遊びを通して「自分たちはこんなことができる」という感動を伴った主体的な成功体験をすることは、自己有用感を実感する人生の重要な学びでもあると言われています。そんな力が学校に行き学習に向かう姿勢に繋がります。

幼児期の主体的な遊びを大事にして、個に応じた関わりをしながら子ども達の遊びの中での学びを支えていきたいと思っております。

保護者の方も一緒に支えていてください。



## 地域の教育力を活かして

子ども達は色々な人に支えられて、日々生活をしています。地域の方たちの温かい関わりが子ども達の心を豊かにし、優しい気持ちになります。コロナの感染が落ち着き地域の方たちと触れ合う機会が持てるようになったことに感謝し、これからも、色々な形で地域の力を借りながら活動を展開していけたらと思います。

11月15日白山神社に七五三詣でに行きました。神社の総代の方たちが、子ども達を迎えてくれ、お参りをした後にお祓いをしていただきました。子ども達は、それぞれ持ってきたお賽銭を入れ、神様にどんなお願いをしたのでしょうか。帰りに、千歳飴をいただき大満足な子ども達でした。

11月5日はさくらんぼ会のお母さんたちの読み聞かせがありました。4、5歳児クラスは保育室で、3歳児は園庭でそれぞれお話を聞きました。それぞれのクラスに合った絵本を厳選して頂いたので子ども達はお話に見入っていました。

11月10日は、延期になっていましたつかみでした。なかよし組が森小の黄色いバスに乗って、清流公園まで行ってきました。園を出るときは少し風が強かったのですが、水も冷たくなく、長靴に履き替えて入ったのですが、夢中になって捕まえているうちに長靴の中に水が入っても気にすることなくますます格闘している子ども達でした。お弁当の後は清流公園を散策しドングリや落ち葉を拾ったり、滝を見たりしました。清流公園の方たちに感謝し、頂いたますはとても美味しかったと次の日に話をしてくれました。

## 防火指導

9日は消防本部の方の防火指導がありました。119で消防の日になんで11月9日から秋の火災予防週間が始まると言われました。火災報知機の話や火の怖さを話してくれ、ポンプ君とレスキュー君が登場し「火遊びはしない」と約束しました。

22日に勤労感謝にちなんで、郵便局と、子育て支援課、給食室に手作りのカレンダーを届けに行きました。なかよし組がお世話になった人たちに合った絵を考えて描き、一つしかないカレンダーが出来上がりました。きつつき号や消防署の方へも届けます。

